

# 今後発生が想定される極めて規模が大きい災害時の応援職員派遣アクションプラン(AP) 策定協議に係る関係者会議(協議会)とワーキンググループ(WG)について

資料 1 - 2

本協議会の対象となる「今後発生が想定される極めて規模が大きい災害」とは、「国において特別の立法措置及び被害想定が定められている災害(※)」を指すものとする。  
※令和4年3月4日時点において、「南海トラフ地震」・「首都直下地震」・「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」。

## 協議会

○APの構成、策定方針などを協議・決定し、最終的にAPの合意を行う場

※ 南トラAP関係部分

### 【協議・決定事項】

#### <各災害共通>

- ・ APの構成  
(応援県－受援県の組合せ、応援職員の派遣時期、規模 等)
- ・ 応援県－受援県の割当てにあたって考慮すべき事項(「割当て方針」)  
(相互応援協定優先、市町村間の相互応援協定の取扱い、想定進出経路 等)

#### ○構成員等

- ・ 宇田川真之氏(防災科学技術研究所主幹研究員)
- ・ 全国知事会、全国市長会、全国町村会、指定都市市長会
- ・ 令和4年度「応急対策職員派遣制度に関する要綱」に定める地域ブロック幹事県  
(青森県、静岡県、愛知県、兵庫県、山口県、大分県)及び東京都、北海道
- ・ 指定都市(名古屋市、熊本市)
- ・ 総務省自治行政局公務員部応援派遣室(オブザーバー)
- ・ 内閣府防災担当
- ・ 消防庁防災課

<南トラ>  
・ 半割れ・全割れの想定 など

<首都直下>  
・ 多数の応援職員が必要  
・ 東京都区の受援体制の想定 など

<日本海溝・千島海溝>  
・ 寒冷地に対する応援体制  
・ 北海道内の応援・受援 など

### 南トラWG

協議会が決定した割当て方針、想定等に基づき、南トラAPの素案を検討

### 首都直下WG

協議会が決定した割当て方針、想定等に基づき、首都直下APの素案を検討

### 日本海溝・千島海溝WG

協議会が決定した割当て方針、想定等に基づき、日本海溝・千島海溝APの素案を検討

南トラAPを検討した後に、順次設置・検討